



証券コード 9248

人・夢・技術グループ株式会社

2022年9月期 第2四半期決算説明会

2022年6月9日

代表取締役社長 永治泰司

目次

1. ごあいさつ
2. 人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組みについて
3. 2022年9月期第2四半期決算ハイライト・業績予想
4. 2022年9月期第2四半期トピックス



1. ごあいさつ

2. 人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組みについて

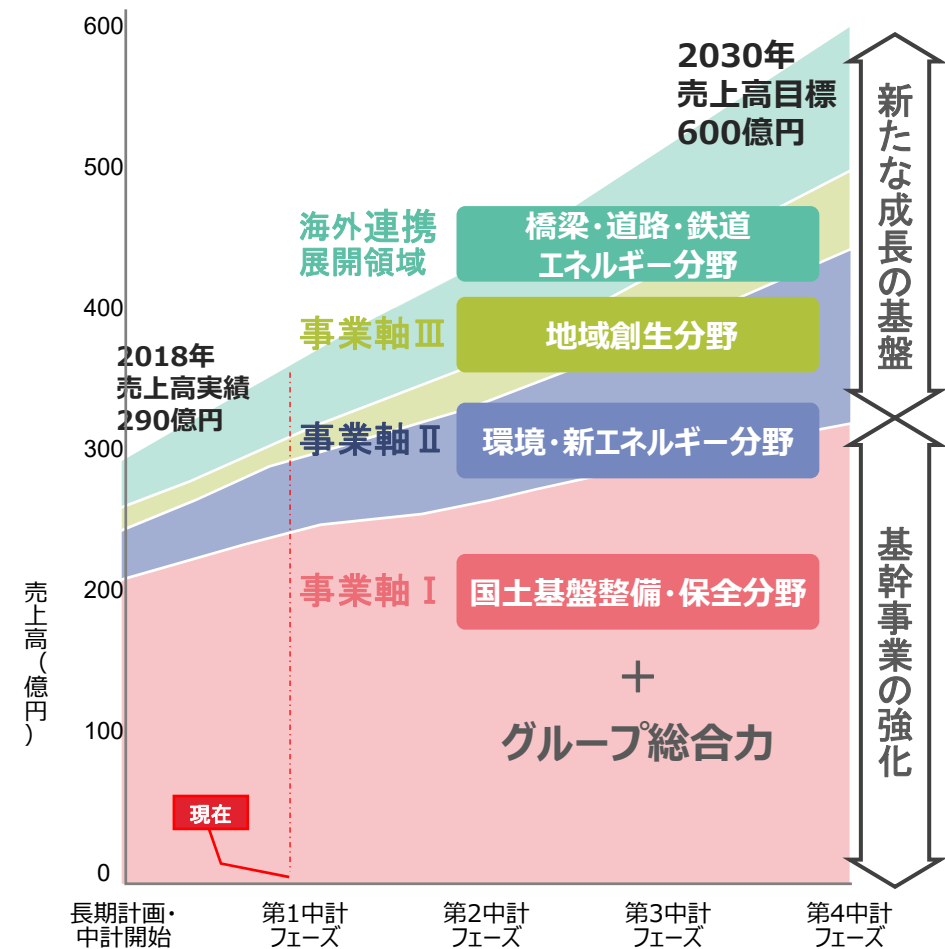
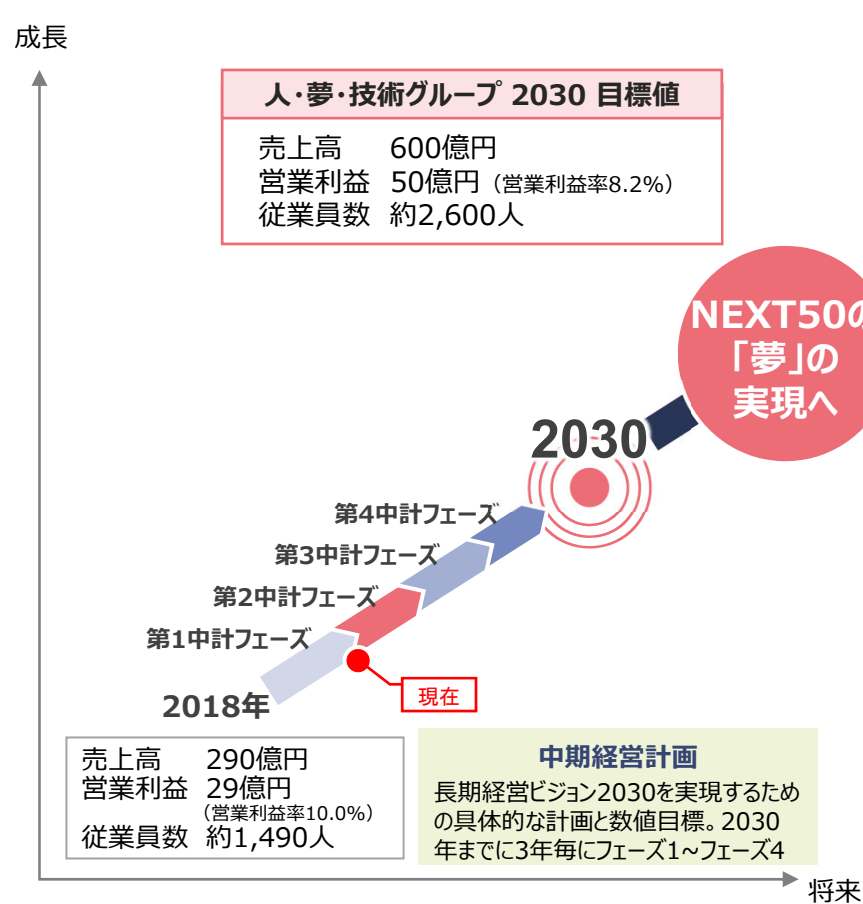
3. 2022年9月期第2四半期決算ハイライト・業績予想

4. 2022年9月期第2四半期トピックス

人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組み

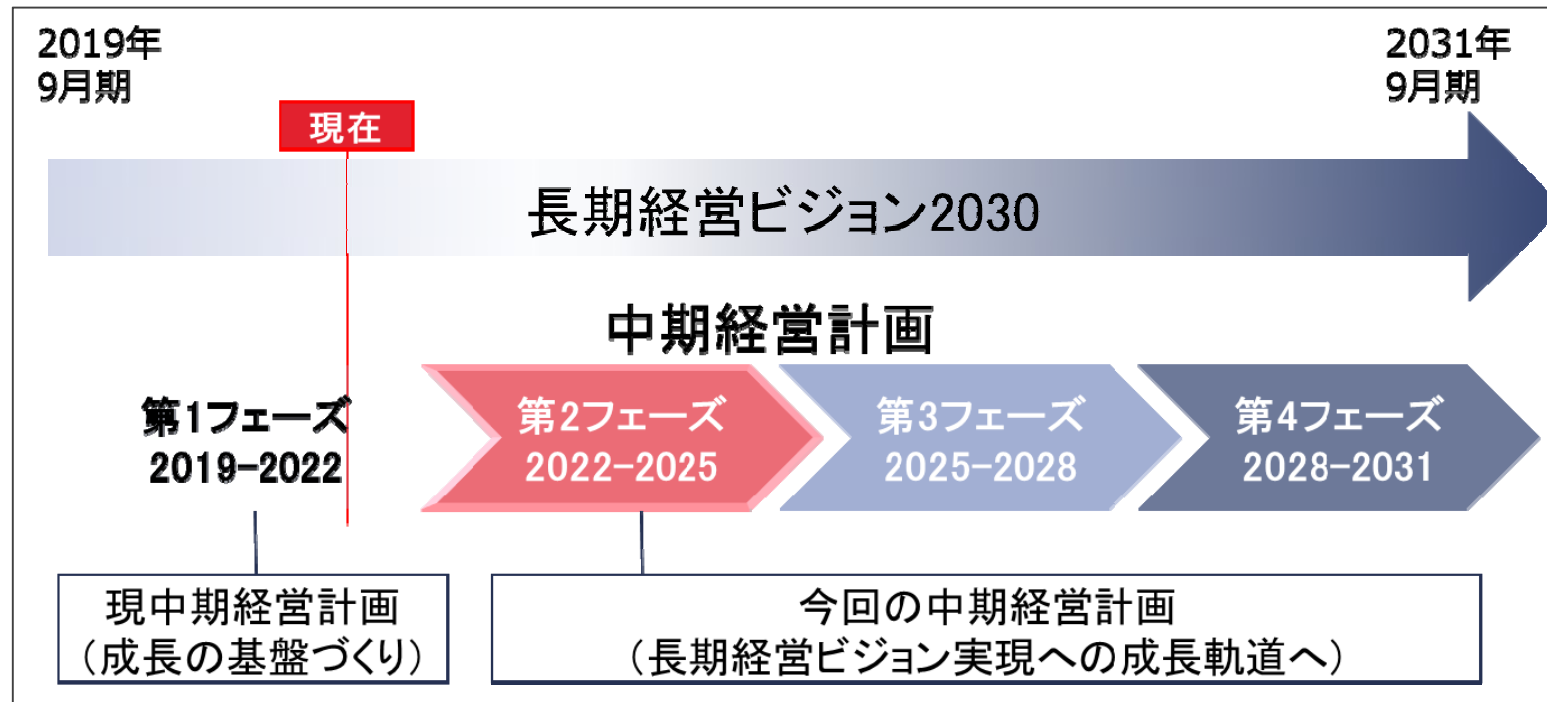
4月4日、東証市場再編にともない「プライム市場」へ移行

今後のグループ拡大の基本方針は「基幹事業の強化」と「新たな成長の基盤づくり」



人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組み

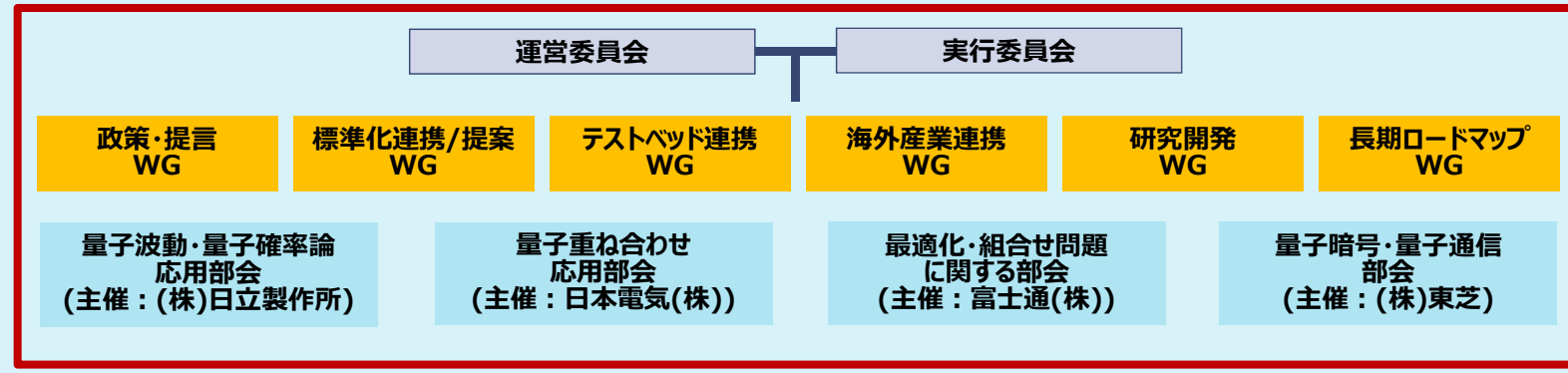
次期中期計画の検討のため「中期経営計画検討委員会」を設置



- グループ各社から執行役員級のリーダーを委員に指名
- 2022年からの3年間に必要な基幹事業の深化、新事業の探索、グループ会社間のシナジーを一層発現するための方策などを議論
- 今夏に検討の取りまとめ、今秋に次期中計計画の公表を予定

量子技術による新産業創出協議会(Q-STAR)での取組み

赤枠内が長大の現在の活動領域



▼運営委員会

代表理事	島田太郎	(株)東芝 代表執行役社長 CEO
副代表理事	遠藤信博	日本電気(株) 取締役会長
副代表理事	篠原弘道	日本電信電話(株) 取締役会長
副代表理事	東原敏昭	(株)日立製作所 取締役会長 代表執行役
副代表理事	時田隆仁	富士通(株) 代表取締役社長 CEO 兼 CDXO
理事	永治泰司	(株)長大 代表取締役会長
理事	磨秀晴	凸版印刷(株) 代表取締役社長
理事	内山田竹志	トヨタ自動車(株) 代表取締役会長
理事	三木聡	(株)フィックスターズ 代表取締役社長

- 長大は国内外の量子関連団体・企業と連携を図り積極的に活動を展開
- Q-STARの様々な部会に、中心的な企業として参画することにより量子技術の活用と実用化を目指す
- 2022年5月23日、本協議会の最高機関である運営委員会に社長の永治が就任
- Q-STARは、さらなる活動の拡大と発展を見据え、「一般社団法人 量子技術による新産業創出協議会」を設立し社団法人化

新たなモビリティへの挑戦

空飛ぶクルマの実現に向けた官民協議会に加入



- 2022年4月、長大は「空の移動革命に向けた官民協議会」*に新規構成員として加入。空飛ぶクルマに関する制度設計、離発着場の導入・評価、実装、展開等について事業検討等を行う
- 大阪・関西万博にも参画するなど、長大が人・夢・技術グループをリードし、事業を拡大していく

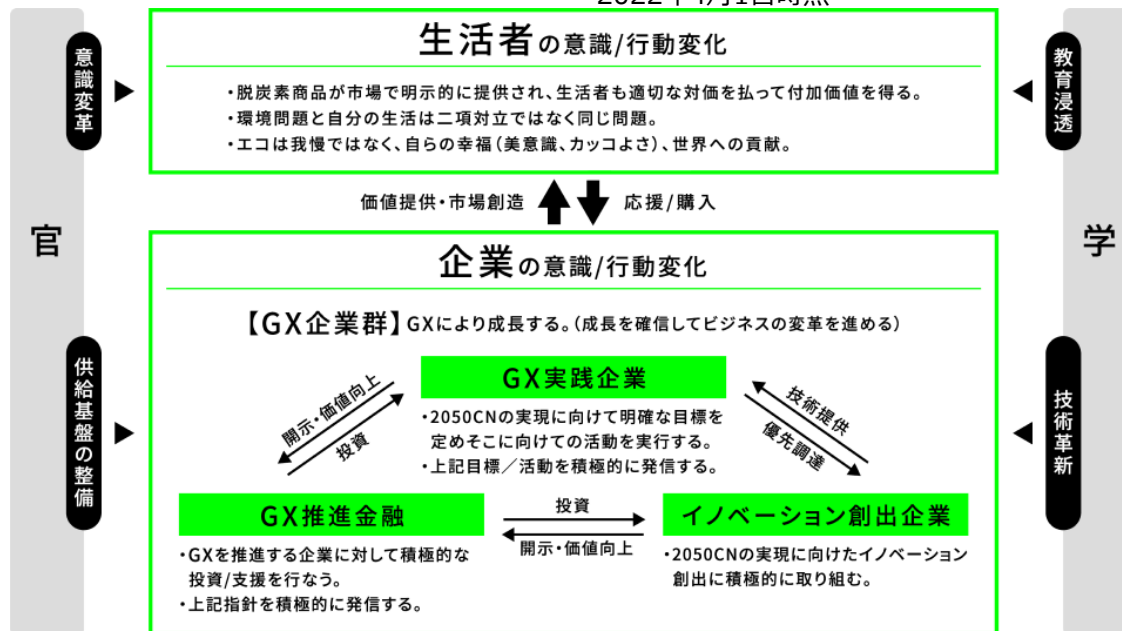
* 2018年8月29日に国土交通省と経済産業省が設立。官と民が連携して空飛ぶクルマの実現に向けた技術開発や制度整備等を協議。

航空に携わる主要企業、国機関などにより構成

経済産業省「GXリーグ基本構想」への賛同

賛同企業

合計 **440** 社
2022年4月1日時点



GXとは「グリーントランスフォーメーション」
温室効果ガス排出削減と産業競争力の向上の実現に向けて、経済社会システム全体の変革がGX

GXリーグとは

2050年カーボンニュートラル実現と社会変革を見据えてGX企業が産官学と協働する場

GXリーグが目指すもの

GXへの挑戦を行う企業が、排出量削減に貢献しつつ、外部から正しく評価され成長できる社会（経済と環境および社会の好循環）

GXリーグのコンセプト

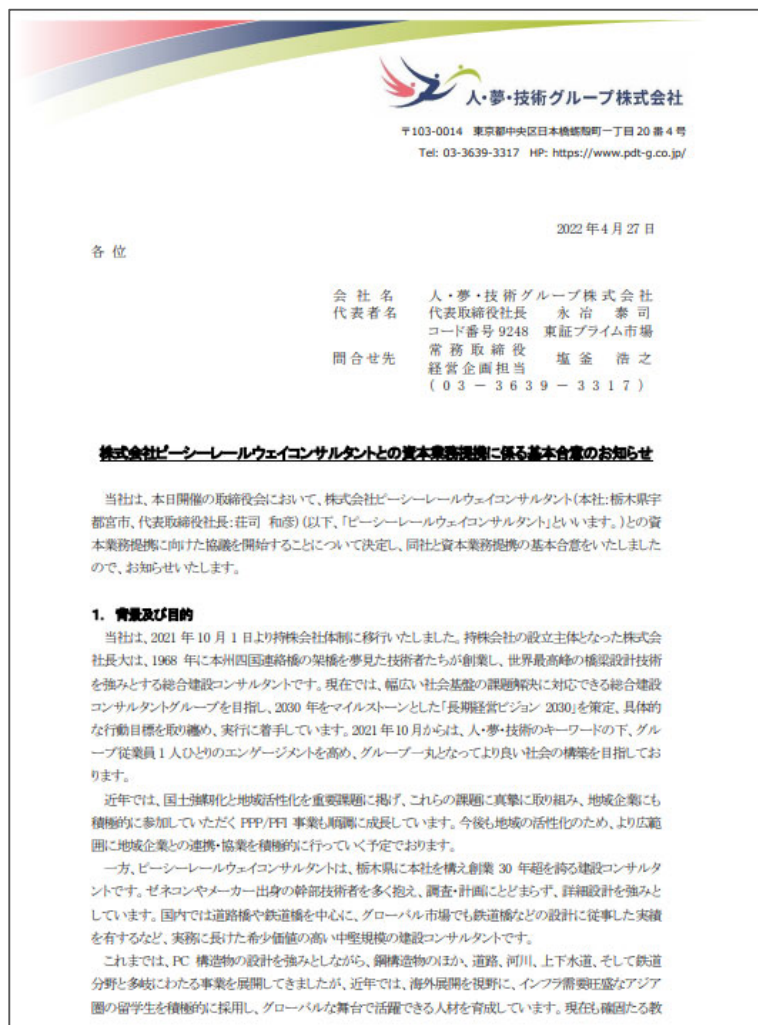
リーダーシップを持って2050年のあるべき社会をリードする未来企業の集合体を目指します。

出典：経済産業省 産業技術環境局『GXリーグ基本構想』

- 2050年のカーボンニュートラルの実現と、経済と環境の好循環を両立する観点から、産官学が協働するGXリーグを通して、新たなGX市場形成のあり方（ルールメイキング等）の議論や仕組みづくりへ積極的に参画
- 当社が賛同した「FIDIC（国際コンサルティング・エンジニア連盟）Climate Change Charter（気候変動憲章）」で掲げられている、「2050年までにネットゼロを達成」に向けた挑戦とも合致した取組み

人・夢・技術グループの新しい展開

株式会社ピーシーレールウェイコンサルタントとの資本業務提携に係る基本合意



■ 今後の事業領域の拡大や地域創生に向け、2022年4月27日、株式会社ピーシーレールウェイコンサルタント（本社：栃木県宇都宮市、代表取締役社長：荘司 和彦）と資本業務提携の基本合意を締結

■ 互いの課題に取り組み、事業を成長させていく認識が一致

- 人材、技術、顧客基盤等の様々な経営資源の相互活用
- 事業領域及び顧客基盤の拡大
- 生産性の向上等

■ ピーシーレールウェイコンサルタントの発行株式のうち過半数を取得予定



1. ごあいさつ

2. 人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組みについて

3. 2022年9月期第2四半期決算ハイライト・業績予想

4. 2022年9月期第2四半期トピックス

連結損益計算書サマリー

主力の国内の道路事業・構造事業等を中心とした受注増加を背景に順調に進捗

(百万円)

	2021年9月期 中間実績 (注1)	2022年9月期 中間実績 (注2)	増減額	通期予想	進捗率	【参考】 2022年9月期 旧基準中間実績 (注3)
受注高	16,487	18,575	2,088	36,900	50.3%	18,575
売上高	18,258	20,234	1,976	35,700	56.7%	17,017
営業利益	3,280	3,777	497	2,670	141.5%	2,333
経常利益	3,389	3,893	503	2,700	144.2%	2,449
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,220	2,591	370	1,500	172.7%	-

(注1) 2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値

(注2) 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用

(注3) 2021年9月期の株式会社長大の会計基準を適用した数値

■ 売上高について

- 主力事業である道路事業、構造事業等を中心とした受注増加を背景に、連結ベースの売上高は順調に進捗

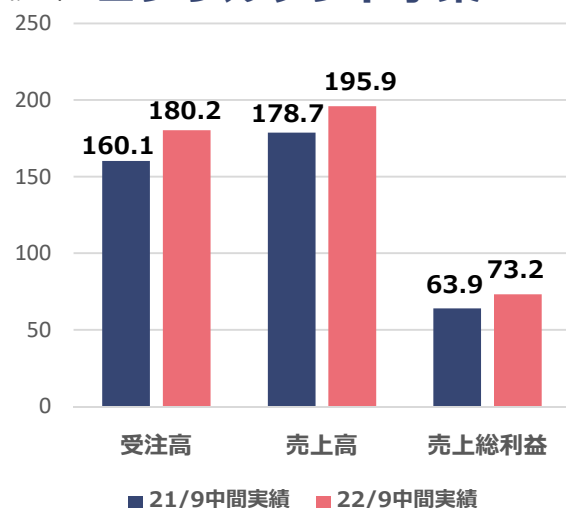
■ 営業利益、経常利益について

- 持株会社化に伴う一過性の費用も発生したものの、売上高の増加、原価率の改善効果が大きく、営業利益・経常利益も順調に進捗

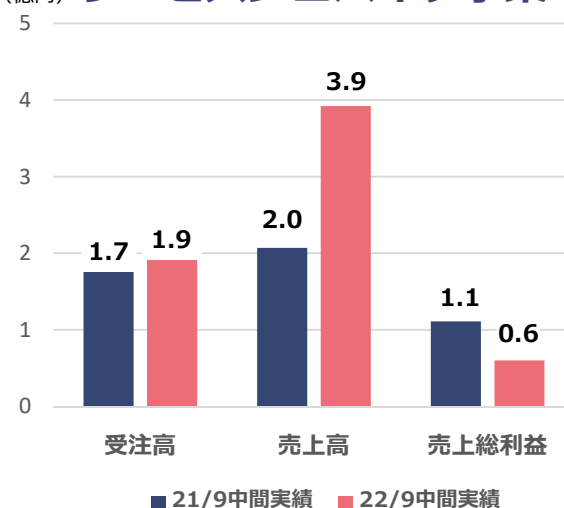
セグメント別の業績

主力のコンサルタント事業は、構造事業と洋上風力などの地盤調査事業が牽引

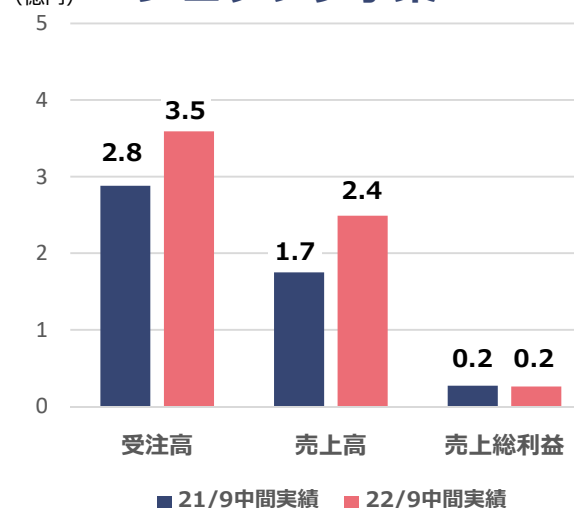
(億円) **コンサルタント事業**



(億円) **サービスプロバイダ事業**



(億円) **プロダクツ事業**



■事業環境を反映して総じて堅調

- 構造事業、社会基盤事業、地質土質事業とも、良好な事業環境を背景に業績は堅調
- 海外事業では、新型コロナウイルス感染症拡大の中、地盤の調査・観測業務が売上に貢献

■増収減益

- 前期に引き続き、国内におけるPark-PFI事業の運営やバイオマス発電事業の事業化等、地方創生に資する事業を推進
- 海外ではフィリピン・ミンダナオ島における地域開発プロジェクトが着実に進展し売上増に貢献

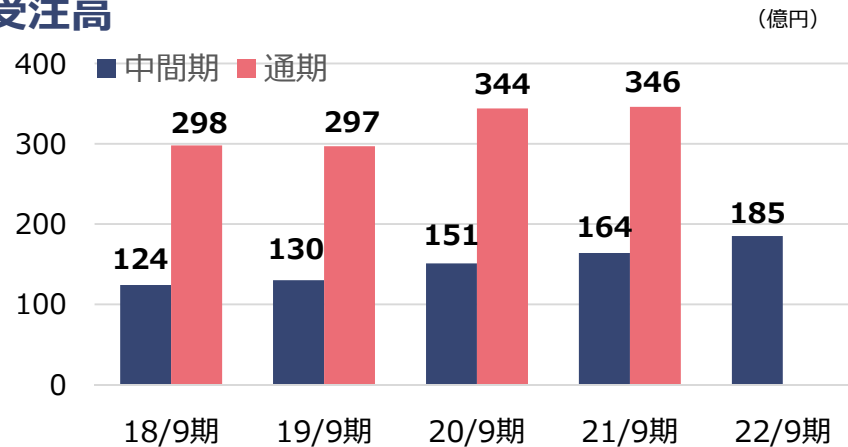
■商品拡充などにより、増収

- コンクリート用夜間反射塗料、バイオグリーンシールドなどのオリジナル商品を拡充

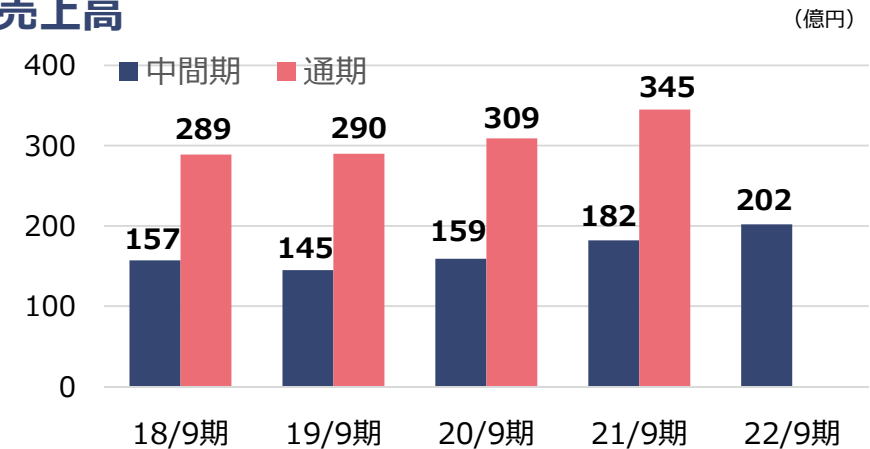
連結業績推移 ～受注高・売上高・利益～

受注、売上高、営業利益ともに、前年度実績を大きく上回り堅調な業績を維持

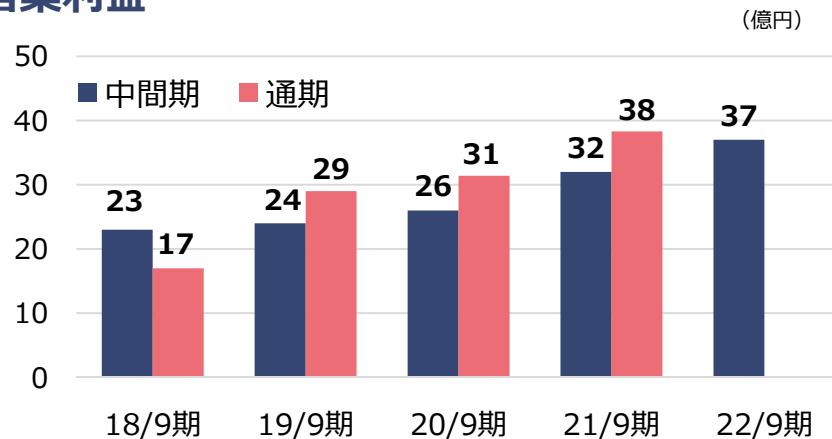
受注高



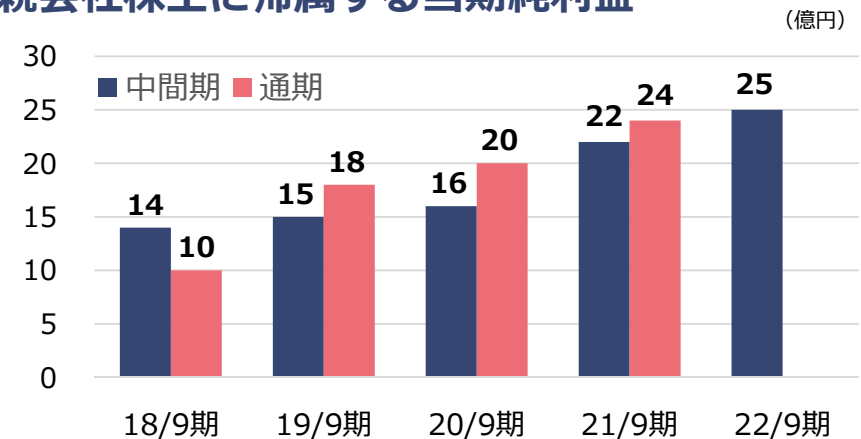
売上高



営業利益



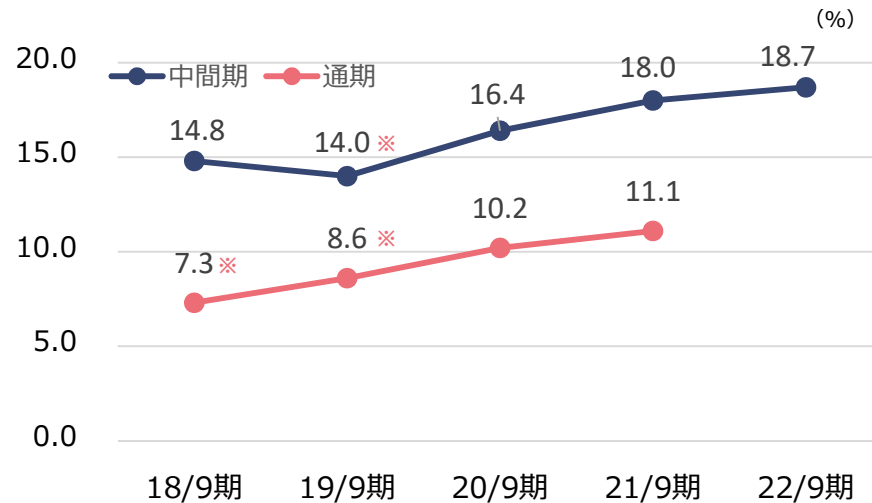
親会社株主に帰属する当期純利益



連結業績推移 ～利益率～

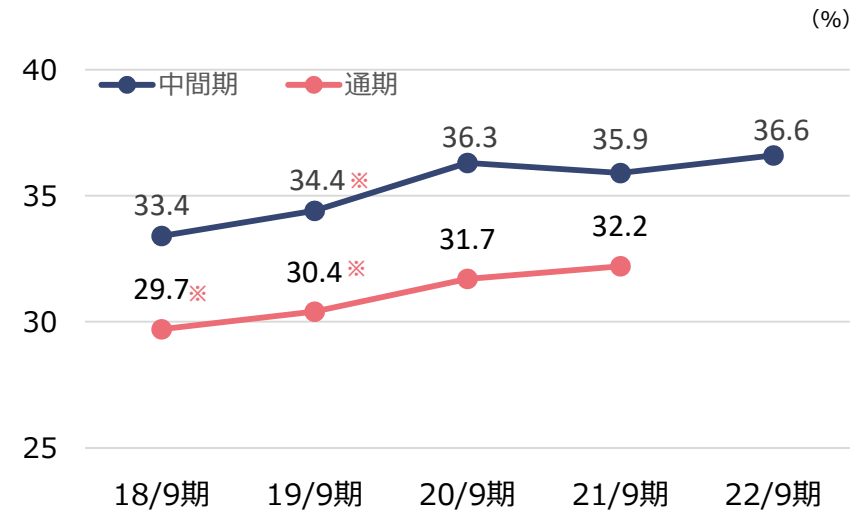
営業利益率、粗利率ともに、好調な事業環境やIT化推進による業務効率化により引き続き改善

営業利益率



※保証金引き当て金4億円の影響を除く

粗利率



※保証金引き当て金4億円の影響を除く

連結貸借対照表の概要

(百万円)

＜主な項目＞	2021年9月期 実績(注1)	2022年3月期 中間実績(注2)	増減額	コメント
資産合計	32,769	35,917	3,148	流動資産 ・ 受取手形、完成業務未収入金及び契約資産の増加 (「収益認識に関する会計基準」適用による影響) 固定資産 ・ 投資その他の資産の減少、主に繰延税金資産の減少による影響
流動資産	23,108	26,664	3,556	
固定資産	9,660	9,253	△407	
負債合計	14,605	15,467	862	流動負債 ・ 短期借入金の増加、3月の業務完了が集中することによる経費立替の影響 固定負債 ・ 固定負債の増加、主に長期借入金の増加による影響
流動負債	11,526	11,971	444	
固定負債	3,078	3,496	418	
純資産合計	18,163	20,449	2,285	・ 好調な業績を受け利益剰余金が増加
株主資本	17,961	20,200	2,238	

連結キャッシュ・フロー表の概要

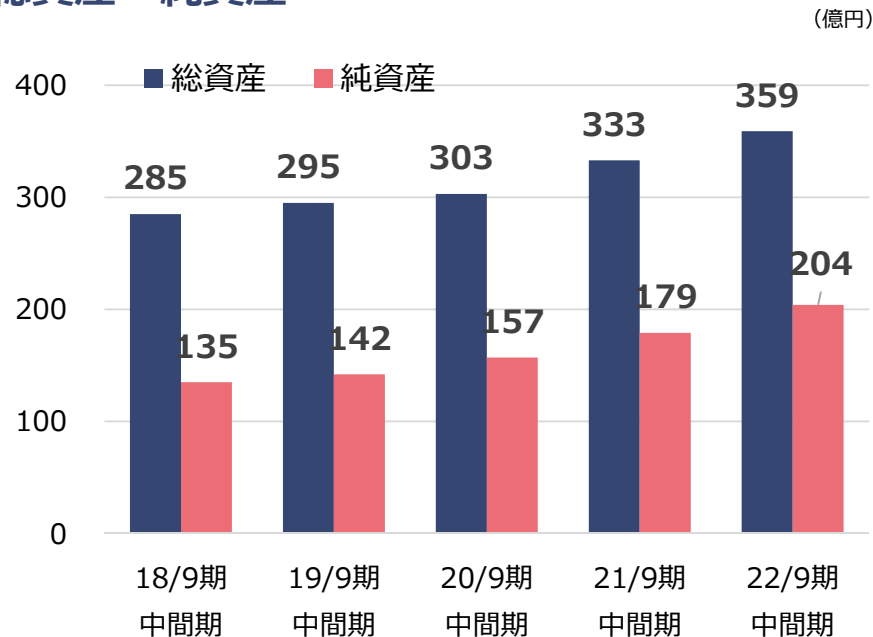
(百万円)

＜主な項目＞	2021年9月期 中間実績(注1)	2022年9月期 中間実績(注2)	コメント
営業キャッシュ・フロー	△2,922	△4,977	「収益認識に関する会計基準」適用による 売上債権の増加、未成業務支出金の減少、 未成業務受入金の減少などによる影響
税金等調整前当期純利益	3,389	3,893	
売上債権の増減額（△は増加）	△6,074	△10,087	
未成業務支出金の増減額（△は増加）	△26	5,282	
未成業務受入金の増減額（△は減少）	366	△2,118	
未払消費税等の増減額（△は減少）	262	△378	
法人税等の支払額	△686	△932	
投資キャッシュ・フロー	△1,217	△648	不動産の取得に伴う支出、長期貸付の実 施による支出等
投資有価証券の取得による支出	△498	△9	
有形固定資産の取得による支出	△85	△318	
貸付けによる支出	△389	△285	
財務キャッシュ・フロー	2,241	3,086	短期借入金の増加による影響
短期借入れによる収入、支出	2,703	3,500	
期末現金および現金同等物残高	6,403	7,663	

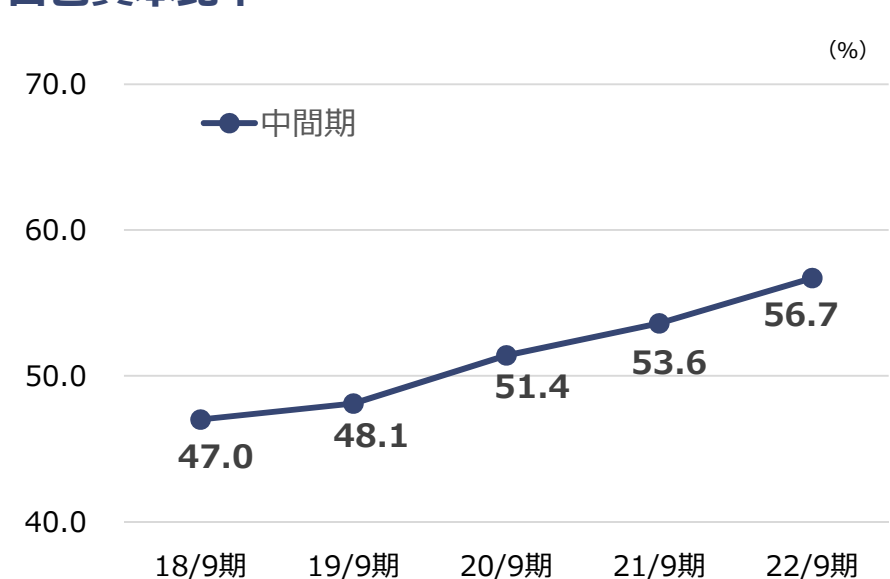
連結財務状況推移 ～自己資本比率～

堅調な売上の増加、利益剰余金の計上により、純資産、自己資本比率ともに増加

総資産・純資産



自己資本比率



- **総資産、純資産の増加について** 継続した増益による利益剰余金の計上により、順調に増加
- **自己資本比率について** 総資産、純資産とともに増加

連結業績予想

第2四半期では、通期業績予想に変更なし

	2021年9月期 通期実績 (注1)	2022年9月期 通期予想	実績比 増減	2022年9月期 中間実績 (注2)	進捗率
受注高	34,631	36,900	2,269	18,575	50.3%
売上高	34,541	35,700	1,159	20,234	56.7%
営業利益	3,838	2,670	△1,168	3,777	141.5%
経常利益	4,024	2,700	△1,324	3,893	144.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,406	1,500	△906	2,591	172.7%

(百万円)

(注1) 2021年9月期実績は、株式会社長大として公表した数値

(注2) 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」等を適用

■売上高、営業利益について

- 売上高については、引き続き堅調な基幹事業の受注を背景に増収の見込
- 営業利益については、持株会社化によるコストの増加、業務消化体制の構築の技術者の増員、生産性の向上に向けたIT技術の導入に向けた投資強化などによる一過性費用の増加により、通期で減益の見込

※「収益認識に関する会計基準」の適用による影響は、通期ベースでは軽微の見込



1. ごあいさつ

2. 人・夢・技術グループ「長期経営ビジョン2030」への取組みについて

3. 2022年9月期第2四半期決算ハイライト・業績予想

4. 2022年9月期第2四半期トピックス

トピックス一覧

	テーマ	トピックス
事業軸Ⅰ	基幹事業の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 愛媛県の岩城橋が完成、「ゆめしま海道」が全線開通 [長大] 石狩湾新港洋上風力発電所の大規模ウィンドファーム計画を支援 [基礎地盤コンサルタンツ]
	災害復旧、防災・減災対策	<ul style="list-style-type: none"> 防災・減災に向けた無電柱化事業で3Dモデルを活用した電線共同溝設計を実施 [長大] 令和3年8月豪雨による災害復旧支援・復旧設計を実施 [長大] 令和2年7月豪雨で被災した国道210号の災害復旧支援 [基礎地盤コンサルタンツ] 高速道路における盛土の耐震化対策 [基礎地盤コンサルタンツ]
	基幹事業のDX推進	<ul style="list-style-type: none"> ドライブレコーダー画像のAI解析で交通安全対策を支援 [長大] 危険斜面の診断を3Dモデルを使ってリモートで実施 [基礎地盤コンサルタンツ] ウェアラブルカメラによる遠方支援システムを活用 [長大テック] 危険を自律的に回避する「周囲安全監視システム」を開発 [エフェクト]
事業軸Ⅱ	環境・新エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県妙高市のゼロカーボン事業を支援 [基礎地盤コンサルタンツ] バイオ炭でCO2削減と地域社会に貢献 [長大]
事業軸Ⅲ	まちづくり・地域創生	<ul style="list-style-type: none"> 世界に先駆けた未来都市「デジタル田園都市構想」の実現へ [長大] 地域創生に向け大学跡地の有効活用を支援 [長大] 京都府伊根町の交通移動サービス開始を支援 [順風路]
海外連携展開領域		<ul style="list-style-type: none"> フィリピン最大の湖上に浮かぶ橋梁設計の大規模プロジェクト受注 [長大]

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

愛媛県の岩城橋が完成、「ゆめしま海道」が全線開通 [長大]



- 2022年3月、愛媛県上島町で岩城橋が完成
- これにより「ゆめしま海道」が全線開通し、瀬戸内海の岩城島・生名島・佐島・弓削島の4つの島が繋がる
- 地域の交通、防災面での機能向上だけでなく、その美しい景観から多くのサイクリストが集まり地域活性化にも貢献

[事業軸 I] 基幹事業の拡大

石狩湾新港洋上風力発電所の大規模ウィンドファーム計画支援 [基礎地盤コンサルタンツ]

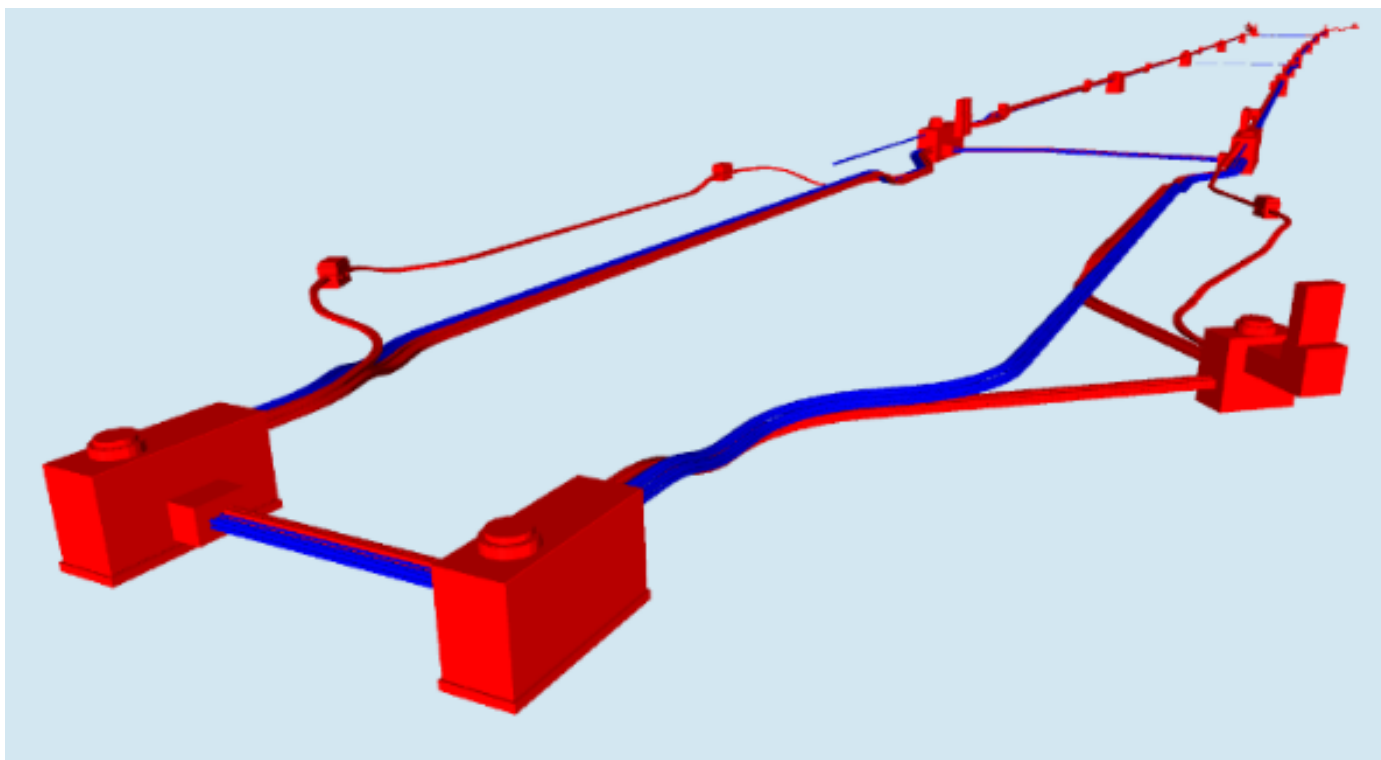


- 2022年2月、基礎地盤コンサルタンツが調査・解析した大規模風力発電プロジェクトである「石狩湾新港洋上風力発電所」がウィンドファーム認証(*)を受けました
- 日本海事協会による洋上風力発電の認証は国内で2例目

* ウィンドファーム認証：風力発電の開始時に、風車や支持構造物の強度や安全性が設計上担保されていることを認証する制度

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

防災・減災に向けた無電柱化事業で3Dモデルを活用した電線共同溝設計を実施 [長大]



- 2020年12月「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が閣議決定され、市街地等の緊急輸送道路の無電柱化が進められている
- 長大は、宇都宮市の国道4号をはじめとし、全国の無電柱化事業で3次元モデルを活用した電線共同溝設計を行う

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

令和3年8月豪雨による災害復旧支援・復旧設計を実施 [長大]



- 各地で河川や道路に多くの被害をもたらした令和3年8月豪雨で、長大は神奈川県の実務を受け、被災した河川護岸や道路の復旧設計、災害査定資料作成等を迅速に行う
- 県道70号では崩落した道路下側擁壁の復旧工法について、現地調査を踏まえ、最適な工法の選定と復旧設計を実施

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

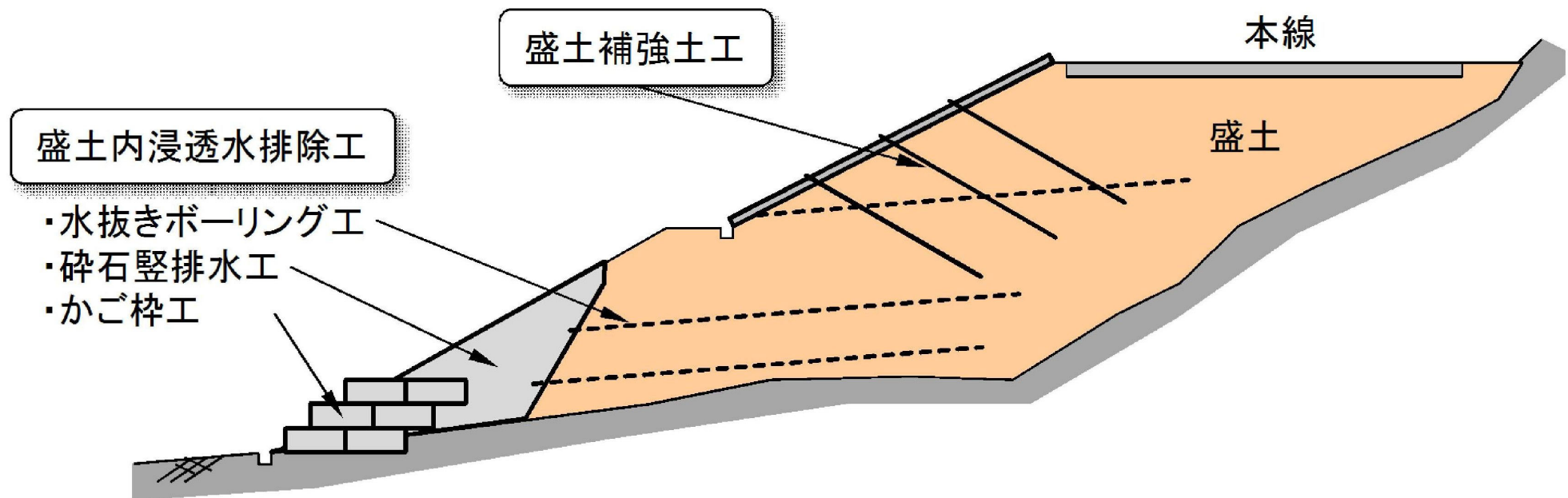
令和2年7月豪雨で被災した国道210号の災害復旧支援 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 令和2年7月豪雨で起きた大分県日田市の国道210号崩落で、基礎地盤コンサルタンツは被災直後より復旧方針の検討・調査、24時間体制の動態観測を行い、応急復旧工事を支援
- 現在行われている本復旧工事では、残存する土のうの耐久性に関する不確実性に対応するリスクマネジメントに取り組む
- 令和2年7月豪雨では橋梁の復旧も行うなど、グループをあげて災害復旧・復興支援を行う

[事業軸 I] 災害復旧、防災・減災対策

高速道路における盛土の耐震化対策 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 2007年の能登半島地震や2009年の駿河湾沖地震で発生した高速道路の大規模な盛土崩壊による事故を踏まえ、基礎地盤コンサルタンツではNEXCO西日本が進める防災対策のための調査を数多く手掛ける
- その成果をもとに現在、盛土内浸透水排除工や盛土補強土工による耐震補強工事が施工されている

[事業軸 I] 基幹事業のDX推進

ドライブレコーダー画像のAI解析で交通安全対策を支援 [長大]



- エフェクトと共同で、ドライブレコーダーに記録された画像情報のAI解析により、児童の車道へのはみ出し地点や危険な路上駐車などを自動検知するAIモデルの研究開発、データベース化に取り組む
- 地域の交通安全対策を支援

[事業軸 I] 基幹事業のDX推進

危険斜面の診断を3Dモデルを使ってリモートで実施 [基礎地盤コンサルタンツ]



- コロナ禍や足場が悪いことなどを理由に、道路防災事業で行われる合同現地確認が困難になっている状況を鑑み、ライブ映像配信によるリモート診断を試行
- MR(複合現実)*という技術を使った3Dモデル表示により、危険個所がよりリアルに視認でき、技術者の判断・評価を遠隔で行うことが可能に

* MR(複合現実)：現実空間に対応する仮想3Dデータを映し、現実と仮想をミックスする技術

[事業軸 I] 基幹事業のDX推進

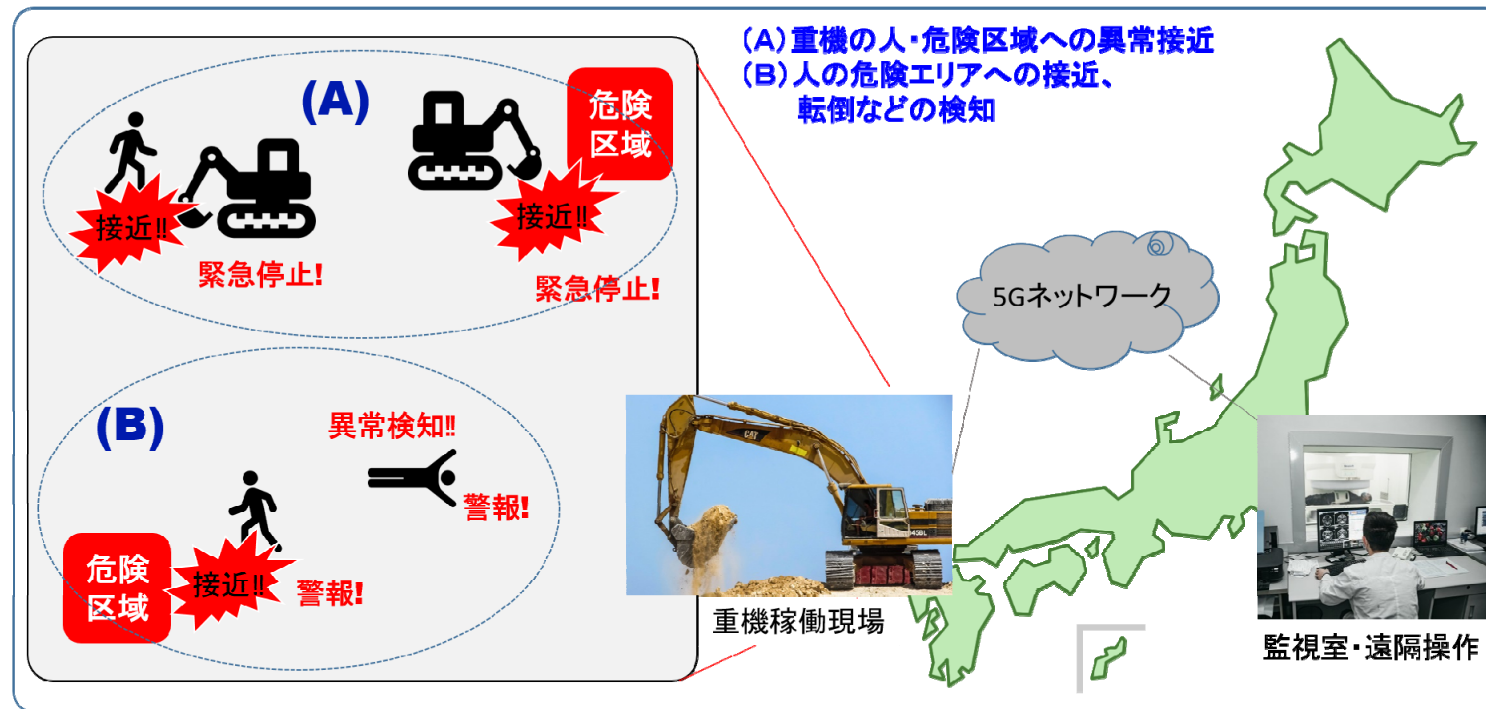
ウェアラブルカメラによる遠方支援システムを活用 [長大テック]



- 長大テックでは、現場作業者が身につけたウェアラブルカメラを通して、作業の映像と音声を発注者、当社、現場間で共有する遠方支援システムを活用
- 熟練技術者の意見をリアルタイムで共有し、迅速な調整や指示を実現
- 収録した映像を若手社員の研修にも活用

[事業軸 I] 基幹事業のDX推進

危険を自律的に回避する「周囲安全監視システム」を開発 [エフェクト]



- 現在、建設現場の重機を遠隔で操作することは可能だが、現場で発生する危険を遠隔で瞬時に回避することは困難
- これを受けエフェクトでは、現場の危険に関しては遠隔操作を待たず、自律的に回避する「周囲安全監視システム」を開発し、実証実験を行う

[事業軸Ⅱ] 環境・新エネルギー

新潟県妙高市のゼロカーボン事業を支援 [基礎地盤コンサルタンツ]



- 地熱資源開発を推進し、将来の発電事業化を目指す新潟県妙高市で、2050年カーボンニュートラルに向けた実行計画の策定を支援
- 地域資源を最大限に活用した再生可能エネルギー導入目標を設定し、地域資源と経済の好循環を目指す

[事業軸Ⅱ×Ⅲ] 環境・新エネルギー × まちづくり・地域創生

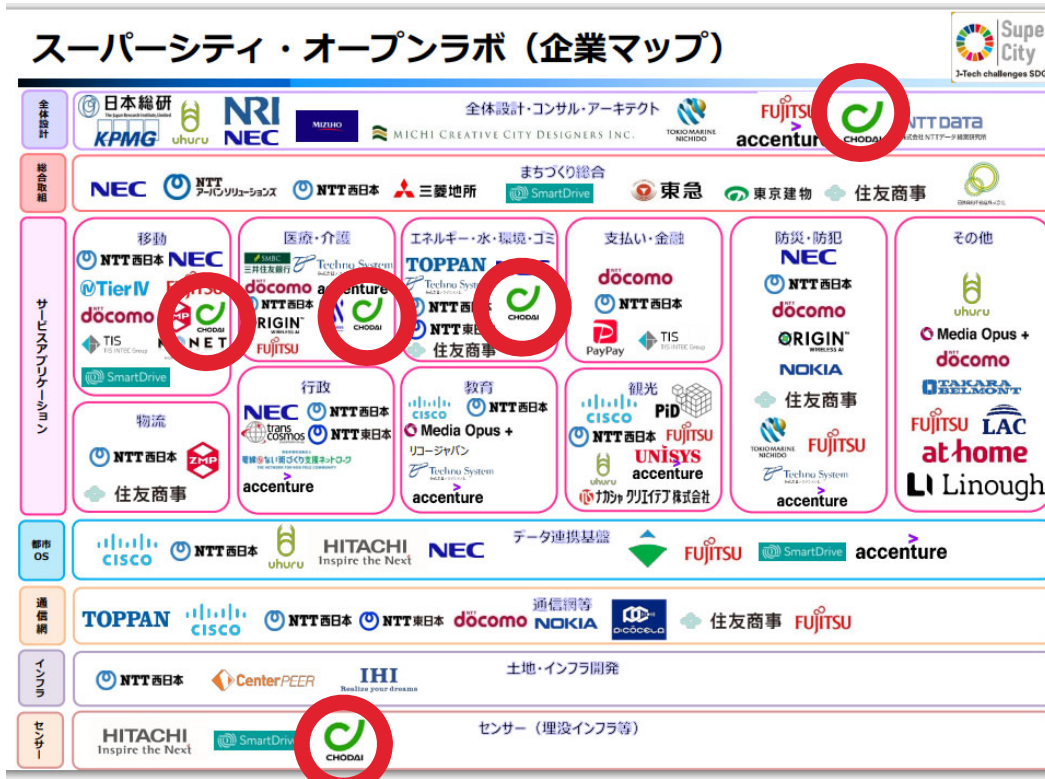
バイオ炭でCO2削減と地域社会に貢献 [長大]



- 自社が持つ山梨県南部町のバイオマスガス化発電所で生成される「バイオ炭」を活用
- 土壌改良剤として近隣の農地へ施用。炭内部にCO2を溜める為、大気中のCO2削減に貢献
- また、堆肥メーカーでは肥料と混ぜることで熟成を促進。酪農施設では敷料の消臭剤として利用される
- 再生可能エネルギーとバイオ炭で脱炭素社会とローカルSDGsの達成に寄与

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

世界に先駆けた未来都市「デジタル田園都市構想」の実現へ [長大]



- 2020年4月、スーパーシティ・オープンラボに加入
- 2021年3月、更別村が進める「デジタル田園都市構想」推進交付金事業への参画に向け、北海道更別村と包括連携協定を締結
- 2022年6月1日、国交省都市局「3D都市モデル整備・活用事業」について更別村と契約、業務推進
- 今後は全国の自治体と同様の連携を積極的に展開予定

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

地域創生に向け大学跡地の有効活用を支援 [長大]



- 奈良県三郷町に譲渡された奈良学園大学跡地を有効活用するために、
 - ①対象地域全体の地区計画の策定支援
 - ②施設の整備・運営に係る事業者選定支援
 - ③サテライトオフィス化する校舎の改修基本設計
 - ④サテライトオフィスへの企業誘致の支援を行う
- 2023年度の施設オープンに向けて支援を続ける

[事業軸Ⅲ] まちづくり・地域創生

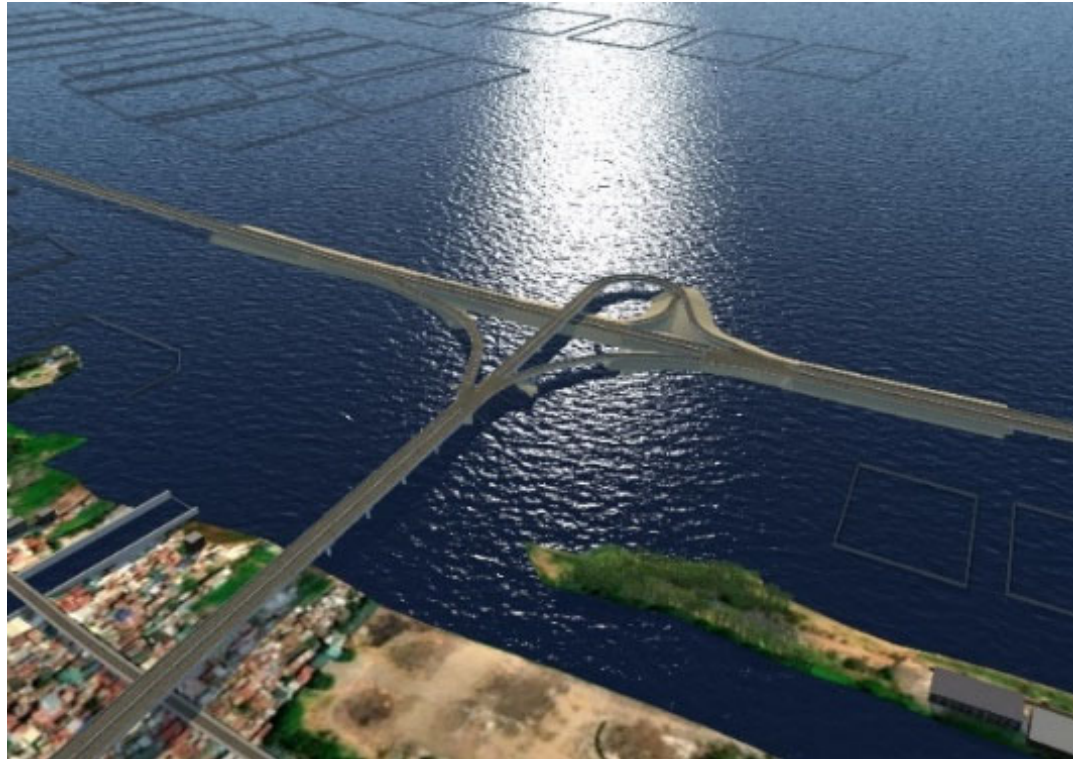
京都府伊根町の交通移動サービス開始を支援 [順風路]



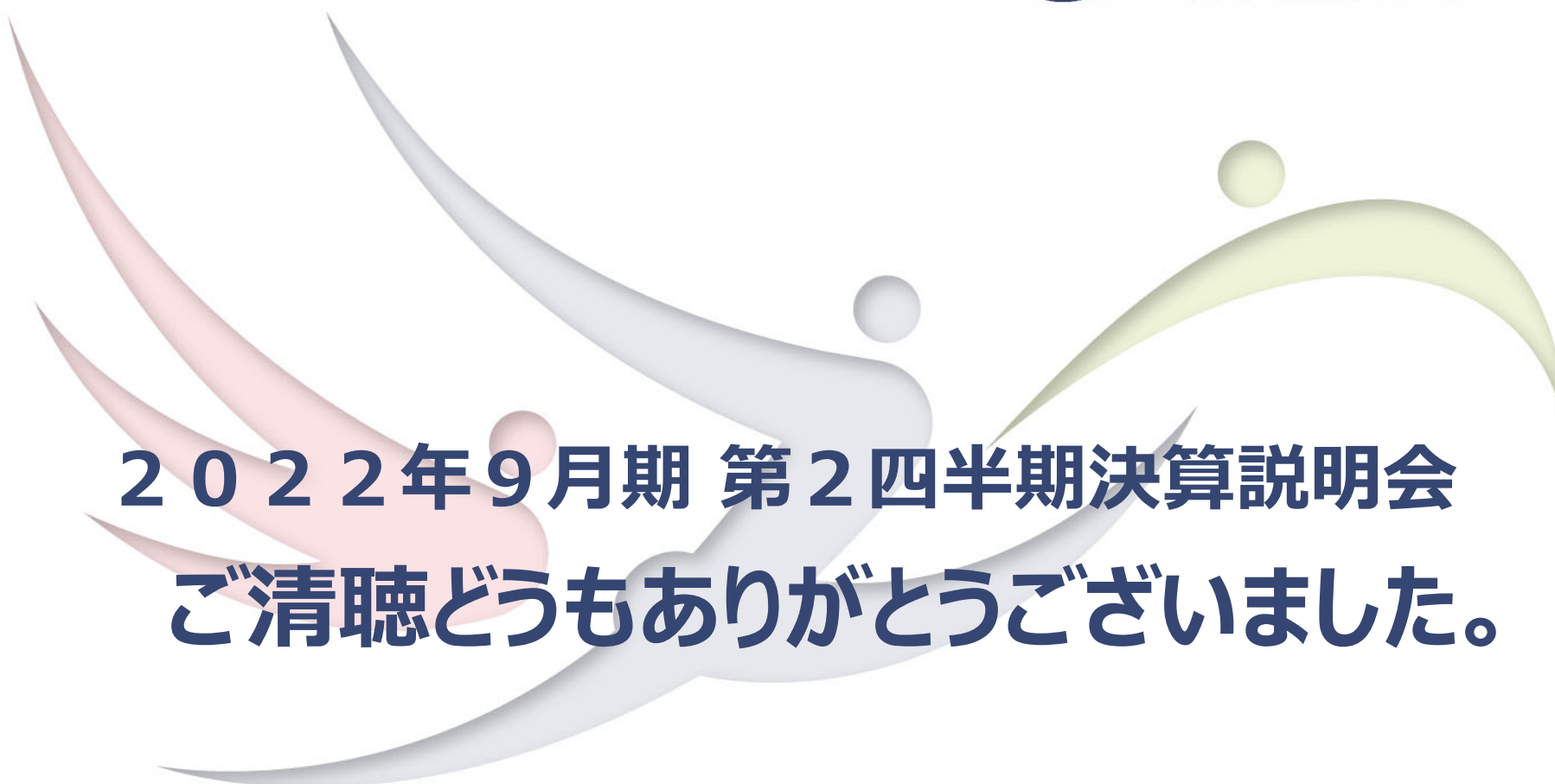
- 順風路はオンデマンド交通システム「コンビニクル」と京都府伊根町の地域情報配信システムを連携
- 町が全世帯に配布しているタブレット端末から予約ができる交通移動サービスの実証実験を重ね、2022年4月からの本格的なサービス開始を支援

[海外連携展開領域] 基幹事業の拡大 × 海外展開

フィリピン最大の湖上に浮かぶ橋梁設計の大規模プロジェクト受注 [長大]



- フィリピン最大の湖、ラグナ湖で計画された約38kmの湖畔道路・橋梁の大規模建設プロジェクトで、長大は湖上に浮かぶ約17kmの橋梁設計を担当
- 完成すれば渋滞緩和による経済効果とCO2排出量の削減に貢献



**2022年9月期 第2四半期決算説明会
ご清聴どうもありがとうございました。**

ディスクレームー

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません
- 本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください
- 本資料の著作権は当社が保有しており、無断転載は禁止いたします

お問い合わせ先： 人・夢・技術グループ株式会社 経営戦略センター 経営企画部

電話：03-3639-3317 FAX：03-6634-6430

Mail：ir@pdt-g.co.jp